

レジメン名	診療科
ERd	血液内科

適応疾患
再発又は難治性の多発性骨髄腫

1クール	28日間
総クール	奏功中継続
休薬期間	6～7日間

薬剤名	投与量(mg/m <sup>2</sup> )	投与日 (d1～d5、d1、d8等で記入)
エロツズマブ	10mg/kg	1～2クール:d1, 8, 15, 22 3クール目以降:d1, d15
デキサメタゾン	40mg/body	
ファモチジン	20mg	

内服併用薬	投与量(mg/m <sup>2</sup> )	用法	投与日(d1～d5, d1, d8等)
レブラミド	25mg/body	医師の指示通り	d1-d21
デキサメタゾン	40mg/body	朝食後	3クール目以降:d8, d22
アセトアミノフェン	400mg	エムプリシティ30分前	1～2クール:d1, 8, 15, 22
ポララミン	2mg		3クール目以降:d1, d15

処方 (輸液・プレメジ・ポストメジを含む)

番号	薬剤名・用量(mg/m <sup>2</sup> )	投与方法	投与時間	投与日(d1～5等)
①	デキサート40mg+ファモチジン20mg+Ns50mL	DIV	30分	1～2クール: d1, 8, 15, 22 3クール目以降: d1, d15
②	エムプリシティ10mg/kg + 生食(対応量)	DIV	下記	
③	生食50mL(フラッシュ用)	DIV	10分	

備考 (減量・中止の基準を記載してください)

【エムプリシティ投与速度】

0.5mL/分の投与速度で点滴静注を開始し、患者の忍容性が良好な場合は患者の状態を観察しながら投与速度を以下の様に段階的に上げる事が出来る。ただし、投与速度は5mL/分を超えないこと。

	0～30分	30～60分	60分以降
1回目投与	0.5mL/分	1mL/分	2mL/分
2回目投与	3mL/分	4mL/分	
3回目投与以降	5mL/分		

【infusion reaction発現時】

grade1:回復するまで投与速度を0.5mL/分とする。忍容性が確認されれば

30分毎に0.5mL/分ずつ投与速度を上げることが出来る

grade2:ただちに投与を中断する。Grade1以下に回復した場合には、投与速度を0.5mL/分として再投与することができる。忍容性が確認されれば30分毎に0.5mL/分ずつ投与速度を上げる事が出来る。ただし、infusion reactionが発現した投与回では、発現時の投与速度を超えないこと。再投与時にinfusion reactionが再発した場合には投与を再中断し、中断日に再投与しない

grade3, 4:ただちに投与を中止する。原則、再投与しないこと。